

学年	2	科目 分類	プログラミング入門	演習	後期	学習教育 目標	担当	牛丸 真司 USHIMARU Shinji
学科(1年 はクラス)	D		Introduction to Programming	必修	履修単位	2		出川 智啓 DEGAWA Tomohiro
概要	はじめに、C G I 言語の一つとして広く使われている、インタプリタ型言語であるPerlによるプログラミング学習を行い、Perlそのものの利用法を習得すると共に、プログラミングのセンスを身に付ける。後半では、演習を通してC言語の基礎概念の理解と初歩的なプログラミング技術を習得する。 P Cでの演習を併用し、実践的な応用力を身に付ける。 授業ごとに、適切な量の演習課題を出し、課題の提出を課する。							
科目目標 (到達目標)	(1) Perlのプログラミング技法 (2) C言語のプログラミング書式 (3) コンソールと入出力：scanf, printf, アスキーコード (4) 制御構造：if else文, for文, while文など (5) 配列：一次元・二次元配列の宣言と初期化およびデータ入力							
教科書 器材等	Perlに関するプリント 「入門ソフトウェアシリーズ1 C言語」河西 朝雄 著 (ナツメ社)							
評価の基準と 方法	後期中間試験30%、後期末試験30%、課題レポート40%として評価する。 60%以上を合格とする。							
関連科目	情報処理基礎							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回	×	プログラミング言語について						
第2回		Perl入門1：変数、配列、標準出力						
第3回		Perl入門2：制御構造1 (if, while)						
第4回		Perl入門3：制御構造2 (for, foreach)						
第5回		Perl入門4：標準入力、ファイル入出力						
第6回		Perl入門5：文字処理、正規表現						
第7回		Perl入門6：関数定義						
第8回		後期中間試験						
第9回		Cの基本的なきまり：C言語の歴史、Cプログラミングの基本書式、コンパイル方法						
第10回		コンソールとの入出力1：データ型と変数の型宣言、画面への整数型データの出力						
第11回		コンソールとの入出力2：画面への実数型データ出力、キーボードからのデータ入力						
第12回		制御構造1：制御構造と構造化プログラミング、条件判断 (if else文、else if文)、 関係演算子と論理演算子						
第13回		制御構造2：繰り返し (for文、while文)						
第14回		制御構造3：EOF、繰り返し (do while文)、多分岐処理 (switch case文)						
第15回		配列：配列の宣言、配列データの初期化、配列へのデータ入力						
第16回		× 後期末試験						
第17回		試験の返却および解説、授業アンケート						
オフィスアワー	授業実施日の15:00~17:00、試験の前1週間は曜日を問わない							
授業アンケート への対応	課題を期限内に提出できない学生には、個別に質問へ対応するようにしたい。							
備考	授業に関する質問は、degawa@numazu-ct.ac.jpへのメールでも受け付ける。							
更新履歴	20120328 新規							